

## 尾高 一郎先生

二十回生 荒木 弘進

小学校一年生と二年生は小林先生、三年生と四年生は金谷先生と四年生までは女の先生が担任で、五年から男の先生の尾高先生が担任になりました。

入学以来、担任をしてくださった先生には可愛がられてきたこともあったこと。戦争中の上級生に對する先生方の対応を見ていて、特に男の先生は「こわい」という感じを持っていたこともあって、五年になった時に尾高先生が担任と分かった時は「こわそう」といった感じだった。

現実には、自分から積極的に行動する方ではない私は、お山の大将の後を付いて歩いていて団体責任で叱られたり、立たされたりしたことはあったものの個人的に直接叱られることも無く過ごした2年間で、最初の印象とは違い、在校中の先生の印象は「こわい」というよりは「生徒を公平に可愛がる」といった感じしか残っていません。

その他で、記憶に残っていることといえば、ホームルームの時間によく「毛沢東」の話をされたことです。

その為にレッドページに引つかかった？

思い出と言えば、当時流行った、卒業時の「サイン帳」です。

そのサイン帳に、先生が達筆で『大声で 誰もが 生まれて来てよ かった』と喜び叫ぶことの出来る 社会を建設する ことが君らの仕事だ』と言う言葉 を贈って下さったことです。

大声で 誰もが  
生まれて来て  
よ かった。と  
喜び叫ぶことの  
出来る社会  
を建設するの  
が 君らの仕事だ

一九四九年三月十九日

吹田市海芝堂三三三〇

毛沢東 一郎

そのサインをいただいた時には、その内容より、サインをもらえたことのほうが嬉しくて書かれた言葉の意味については、その時は、残念ながら心に残っていませんでした。

先生と親しくお付き合いをしたのはむしろ卒業後

尾高先生写真アルバム(20 荒木弘進さん提供)



昭和24年6年雪組クラス写真



昭和24年教職員写真



昭和58年8月21日20回同期生会

前列 武田明子先生 小林和子先生 尾高一郎先生 松田嘉藏先生  
西澤静男先生 明原文治先生



平成元年8月27日20回同期生会



平成3年10月11日20回同期生会

で、特に卒業後二十年を過ぎた昭和55年から、我々、昭和24年卒業生が開催していた同期生会を楽しみにしていたら、毎回ご出席くださいました。その時、そのサインの話をしたら、さすがに先生も覚えてはおられず、「そやったかいな」ってことでした。先生の書かれたような社会に役立つことなどは出来ませんでした。私なりに頑張ってこられたのは、先生のこのサインのおかげです。このサインは今も私の宝物です。

その同期生会で、先生が七十歳になられた時、「俺も七十歳や、後何回参加できるか判かれへんから、この同期生会を毎年やってくれ！」と言われ、我々との会を楽しみにして下さっているのがとても嬉しく思いました。

残念ながら我々も丁度仕事盛りの年頃で、仕事に忙殺されている日々を送っている年代だったので、毎年の開催は難しく、それまで三年に一度の同期生会を二年に一度の開催に変えて喜んで頂いたことが記憶に残っています。

その後、脚を悪くされてからも、奥様同伴で毎回ご参加いただいたことを、同期生全員懐かしく思っています。



荒木さんからはサイン帳の他、卒業時や同期生会の写真を多数ご提供戴きました。  
二十回同期生会  
昭和31年服部緑地公園



小学校の先生が本当の意味で教育者だといわれます。十六年間の学生生活の中で一番身近に感じていたのは尾高先生でした。